

多賀の国の物語 9

石を楽しむ

長命長寿の神様が鎮座する多賀

多賀の神様から頂いた一生ですが、

地球の歴史に比べれば、ほんの二瞬にしかすぎません。

多賀の地には、地球の歩みを今に伝える証人達が

「石」に姿を変えて佇み、様々なことを語りかけてくれます。

石の眩きに耳を傾ける旅に出かけませんか。

地球の歴史を秘めた多賀の石

かわちのかざあな

石灰岩と河内風穴

多賀が海の底だった



河内風穴

湖東流紋岩と大蛇ヶ淵

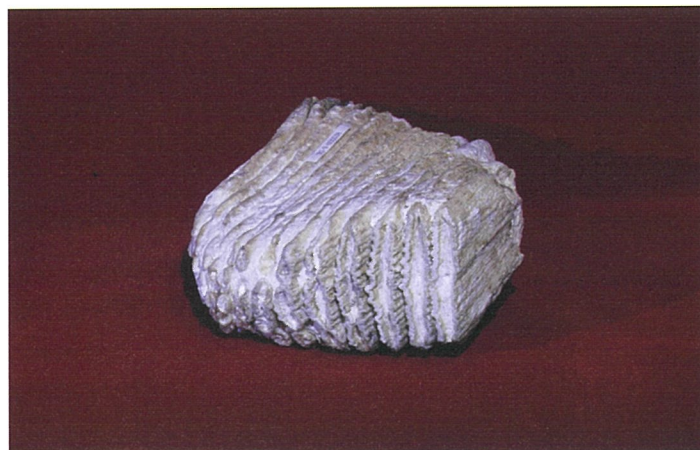
多賀に火山があった



大蛇ヶ淵

化石

多賀をゾウが歩いていた



久徳第9標本ナウマンゾウ左上顎第3大臼歯

近江には海はありません。しかし、今から約2億8千万年ほど前、多賀は海の底でした。一年を1mmに換算すると、人の一生は約8cm。2億8千万年とは、約280kmに相当します。琵琶湖の一周が約200kmです。気が遠くなるほどの昔、海で暮らしていた、サンゴなどの固い殻を持つ生き物の遺骸が海底に積み、これが長い年月をかけて石に変じたのが石灰岩です。多賀の背後に聳える霊仙山は石灰岩の山で、この地域で産する石灰岩は、漆喰やセメントの原料として様々に利用されてきました。

石灰岩は雨水に溶けやすく、独特の地形を造ります。近畿最大の鍾乳洞とされる河内風穴はその代表。気の遠くなるような年月をかけて造られた石灰岩を、気の遠くなるような年月をかけて雨水が溶かし、壮大な空間を作り上げました。

近江には火山はありません。しかし、今から約7千万年前、湖東を中心に、阿蘇山に匹敵するほどの巨大な火口が開き、盛んにマグマを噴出させていました。7千万年前ってどのくらい昔？1年を1mmに換算すると、7千万年とは70kmに相当します。近江を恐竜たちが闊歩していた時代です。

この時の噴出物が固まったのが「湖東流紋岩」と呼ばれる近江独特の石で、滋賀県の石に指定されています。そして、この湖東流紋岩が見事な景観を造っているのが、犬上川中流の大蛇ヶ淵です。湖東流紋岩は、川に侵食され切り立った崖を形成し、この間を犬上川が激流となって流れ下ります。まさに水と岩が戦っています。

今から約180万年前、1年を1mmに換算すると1.8kmに相当する時間です。その頃、多賀にはアケボノゾウと呼ばれる小型のゾウが棲んでいました。四手の丘陵での発掘調査では、全身の7割もの骨格が化石として見つかり、全国的に見ても稀なほどの残りの良い化石として、注目されました。

そして、その後、3万年ほど前、今度はナウマンゾウと呼ばれるゾウたちが多賀を闊歩していました。3万年前というと、1年を1mmに換算すると30mに相当する時間です。人間の気配も漂う頃です。芹川の河原からは18個ものナウマンゾウの化石が見つかっており、その中の一つは、国内でも最大級の牙です。これらのゾウたちには、多賀町立博物館で出会うことができます。

石への祈り

奥の権現と口の権現 芹川を生み出す石への祈り

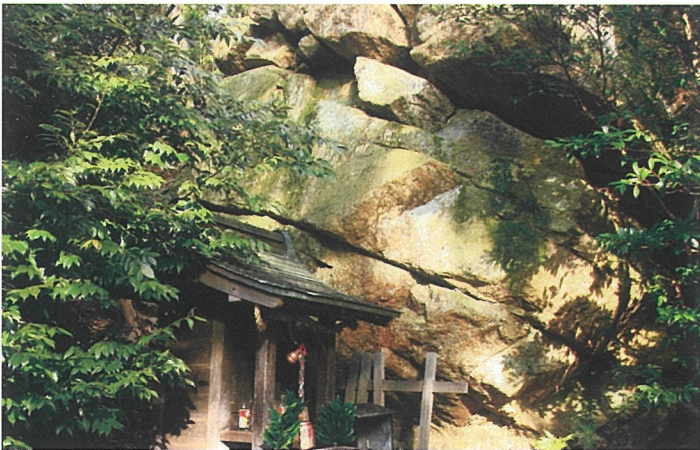


霊仙奥の権現行者窟



口の権現

せいりゅうざん いわくら 青龍山と磐座 水の旅の源



青龍山磐座

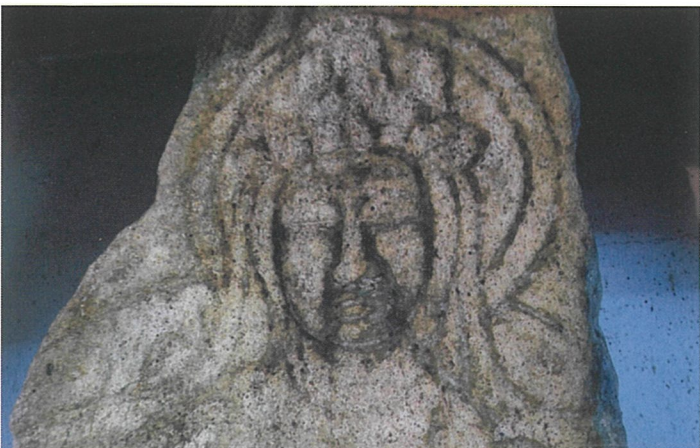
多賀を流れる芹川。その水源となる霊仙山の山麓に、奥の権現・口の権現と呼ばれる聖地があります。奥の権現は、芹川の源流となる権現谷の水が、地表に現れるところを見下ろす、石灰岩の岸壁に口を開けた岩窟です。急斜面をよじ登ったその奥に、不動明王を始めとする神仏が祀られ、祭壇には「湖水講」と刻まれた石も安置されています。まさに、ここが琵琶湖の始まりに対する祈りの場であることを実感させます。

権現谷が河内の集落に入る、その境目の川岸に祀られているのが、口の権現です。河岸に鎮座する巨石が神様で、その周囲に杉の巨木が群れ、人の立ち入りを拒むような厳かな雰囲気漂わせています。巨石の元からも水が生まれ出ています。

多賀の里を見守る様にそびえる山が青龍山で、その名前が示す通り、水を生み出す龍神が住まう聖なる山として信仰されて来ました。この青龍山の中心、まさに龍神が宿るとされるのが山頂付近に露頭する巨岩です。日本には、巨大な岩に生活を見守る神が宿ると考え、これを神として崇める信仰があります。神様の座する処を「クラ」と言います。岩のクラですので「^{いわくら}磐座」と呼びます。奥の権現も、口の権現も磐座に対する信仰です。

山頂の龍神がもたらした水は、中腹の「^{おいけ}御池」と呼ばれる、決して枯れることのない池となり、胡宮神社社務所庭園の池となり、小さな水が集まり、山麓の大門池となり、多賀の水田を潤します。心癒される神秘的な水の旅を体験してみませんか。

敏満寺の石仏 姿を現した石の神



石造十一面観音像

現在の胡宮神社境内は「敏満寺」という巨大な寺院の跡です。敏満寺は歴史の荒波の中、その姿を消してしまいましたが、その繁栄の姿が、石の仏達として、現在まで伝えられています。

胡宮神社境内の南に「^{いしほとけだに}石仏谷」と呼ばれるところがあり、おびただしい数の石仏・石塔が散乱しています。ここは現存するものとしては日本最大級の中世の墓地で、敏満寺で活躍した人たちの供養のために造られた祈りの石達が眠っています。胡宮神社本殿の山側に観音堂があり、御本尊として、聖徳太子が彫ったという、細長い巨石に線刻された十一面観音像が安置されています。十一面観音は水を司る仏とされ、青龍山に対する信仰を具体的な形として表現したのかもしれませんが。

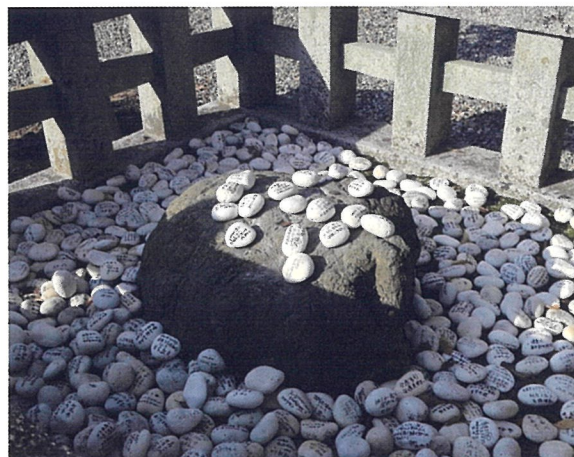
寿命石

多賀の繁栄をもたらした霊石

しゅんじょうほうちようげん 俊乗房重源という僧がいました。彼は、1181年に平重衡らの南都焼き打ちにより壊滅した東大寺の再建を成し遂げた僧です。

重源は、東大寺を再建するため全国を勧進し、その資金調達に腐心しました。この時、敏満寺が、その事業に積極的に協力したと伝えられ、そのお礼として重源が寄進した五輪塔や仏舍利などが、今も伝えられています。

さて、重源が東大寺再建の大勧進職を引き受けたのは61歳の時。この一大事業を成し遂げるために、少しでも健康寿命を延ばしたい。そう願った重源は多賀大社に参籠し、長命が授かる事を祈り続けます。そして満願の日、「菴」の字の虫喰いのある柏葉が現れ、重源は、20年の命を多賀の神に授かり、無事この大事業を果たすことができた、と伝えられています。この多賀の神様の神徳は、多賀の坊人と呼ばれる人たちの手により、全国に広められ、延命長寿を授かる「お多賀さん参り」が定着しました。武田信玄や豊臣秀吉などの有名人も多賀の神に延命長寿を祈願したことは良く知られています。そしてこの時、重源が祈ったと伝えられる石が、多賀大社の境内に「寿命石」として安置され、多くの方が、祈りを捧げ続けています。



多賀大社寿命石



胡宮神社寿命石



お問い合わせ 一般社団法人 多賀観光協会 滋賀県犬上郡多賀町大字多賀389-1 TEL 0749-48-1553

発行 多賀町産業環境課

制作 NPO法人歴史資源開発機構